

# R3年度PBL事例

# 1. 福井大学におけるPBL事例

## <実施事例>

### 福井大学×一般社団法人 足羽山こどもとあそぶLab

#### 『足羽山インバウンド化に向けた情報発信と環境整備』

【指導教員】 人文社会系部門（総合グローバル） 粟原知子准教授

【参加学生】 国際地域学部国際地域学科2年生 4名

【活動期間】 令和3年4月～令和4年2月

## <協働先の課題>

- ・ 福井県は訪日外国者数やその訪問率が全国最下位
- ・ 北陸新幹線福井開業を見据えたインバウンド観光地整備

## <学生の取組内容>

- ・ 足羽山でのフィールド調査と企業・団体・行政機関等へのヒアリング調査
- ・ 足羽山の潜在的インバウンド観光資源の発掘と課題整理

## <事業成果>

- ・ 学生がインバウンドに関する情報やエビデンスを提供したことで、協働パートナーも改めて足羽山のインバウンド資源の認識を深めた。  
特に、学生目線での精緻なヒアリング調査の実施は、足羽山を拠点とする店舗経営者や施設関係者の事業の見直しや新規企画へのアイデア創出に寄与した。
- ・ 成果報告会を公開授業として実施、学内外から130名が参加（3会場）
- ・ 報告書を作成し、関係機関に配布・HPで公開

## <協働先からの感想>

- ・ 足羽山の潜在的インバウンド観光資源の発掘と課題整理を行ったことで、北陸新幹線開業を見据えた外国人観光客獲得に向けて準備が進められるようになった。



## 2. 福井県立大学におけるPBL事例

### <実施事例>

#### 福井県立大学×(株)ホームセンターみつわ

#### 『顧客層の高齢化に伴う顧客戦略の改善と新しい業態の創造』

- ・(株)ホームセンターみつわより、顧客が高齢化する中で、より若い世代に向けた店舗づくりに学生目線のアイデアが欲しいとの依頼
- ・10月中旬、学生が店舗を視察し、コロナ禍における消費行動の変化、売れ残り商品の取り扱い、ネット通販が普及する中での課題など積極的な質問があった
- ・店舗でのインタビューを通じて企業の持つポテンシャルや課題を学び、学生目線での事業改善提案を実施
  - ▶業界の財務分析
  - ▶売場作り商品見直し提案
  - ▶園芸需要の世代交代のための提案
  - ▶SNS広報戦略の展開
  - ▶DIY用の道具を使った小学生向けイベントの開催提案



# 3. 福井工業大学におけるPBL事例

## <実施事例>

### 福井工業大学×株式会社ホリタ

#### 『ECにおける顧客満足度向上のためのサービスサイエンス的手法の実践』

【指導教員】 環境情報学部 経営情報学科（現：経営情報学部 経営情報学科） 杉原 一臣 教授

【参加学生】 経営情報学科 1年生5名・4年生1名

【活動期間】 令和3年5月～令和4年3月

## <協働先の課題>

- ・大学生の文具離れ
- ・ライフイベントに即した文具関連サービスの開発

## <学生の取組内容>

- ・同学科1年生の授業での講演会（⇒「起業」に関心のある学生チームを結成）
- ・地域企業の経営者（株式会社ホリタ 堀田社長など）との座談会
- ・会社見学会（ホリタ文具春江店）
- ・調査結果を踏まえての店舗活用等の企画（⇒経営者に直接提案）

## <事業成果>

- ・会社見学会に同学科1年生5名・4年生1名の参加
  - ・「サービスサイエンス」に関する学びの場の形成
  - ・有志学生による店舗活用企画（3件）の提案
- （例）SNSを利用したインターネット内での取引とイベント宣伝、  
店舗内での就活イベント「就活 in HORITA」



## <協働先からの感想>

- ・「新たな着眼点に基づく企画が示され、とても刺激となった。」 「最近の大学生の価値観が垣間見えた」

# 4. 仁愛大学におけるPBL事例

## <実施事例>

### 仁愛大学×勝山市雪室ブランド推進会議

#### 『勝山市雪室を利用した地場産物の付加価値化』

【指導教員】 人間生活学部 健康栄養学科 佐藤真実 准教授

【参加学生】 健康栄養学科4年生 3名

【活動期間】 令和3年4月～令和3年9月（コロナ渦で短縮）

## <協働先の課題>

- ・勝山市にある雪室に勝山市産（または県産）の地場産物を保存して、地域の魅力を高めたいが、雪室保存による保存性、調理特性、嗜好性、機能性についての評価が不足している。

## <学生の取組内容>

- ・雪室貯蔵による地場産物の新たな高付加価値化に繋げることを目的として勝山市雪室を利用することで、地場産物（だいこん、にんじん）、大豆（県産里のほほえみ）への付加価値拡大につながる基礎データが取得できた。

## <事業成果>

- ・雪室だいこんや雪室にんじんについて、煮込み料理やスープなどの加熱調理にすると食味の向上が期待できた。
- ・大豆については、雪室で3か月から6か月貯蔵することで、発芽率、ウレアーゼ活性が高く、食味の向上が期待できる成果を得られた。

## <協働先からの意見>

- ・推進会議の目的は、農産品や加工品などを雪室利用で付加価値を高め、商品開発を行うことにより、新たな勝山市の地域振興を図ることであり、本事業は、大変有意義な事業である。



# 5. 仁愛女子短期大学におけるPBL事例

## <実施事例>

### 仁愛女子短期大学×株式会社エコファームみかた、カワイマテリアル株式会社 『「福井梅」を用いた高品質加工品の開発』

【指導教員】生活科学学科 小林教授

【参加学生】生活科学学科 食物栄養専攻2年生 3名

【活動期間】令和3年4月～令和4年2月

#### <協働先の課題>

・「福井梅」（品種：紅映）を原料に梅酒、果汁、飲料等多くの加工品を製造販売しているが、経営の安定化、販路拡大に向けて、新たな商品開発、既存製品の改良が必要となっている。

#### <学生の取組内容>

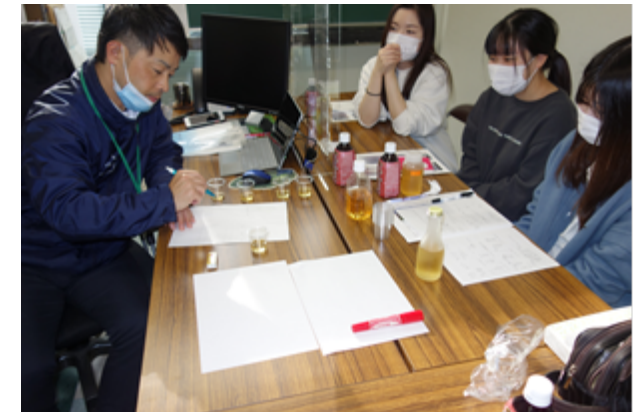
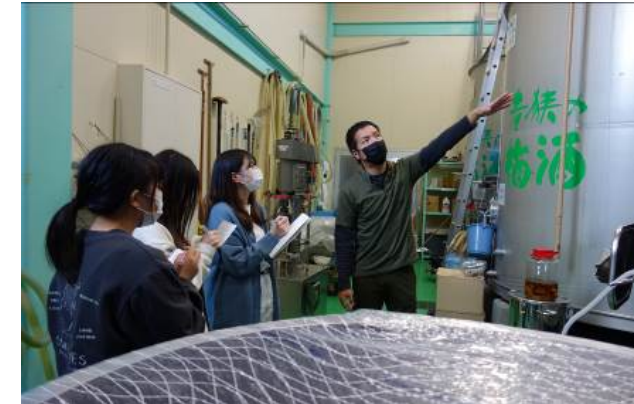
- ・梅加工品としてシロップを取り上げ、使用する氷砂糖の配合割合を検討した。
- ・レモン入り梅シロップについて検討した。
- ・小ロット製造梅シロップのボトル形状、ラベルデザイン案等について、若狭町地域起こし協力隊とともに意見交換を行った。

#### <事業成果>

- ・紅映梅では、従来よりも砂糖の量を減らす方が、またウメ果実の20%をレモンで置き換えたことで、シロップの官能評価は高くなった。
- ・これまでの成果をふまえ、(株)エコファームみかたにて、小ロットで梅シロップの仕込みを行った。

#### <協働先からの感想>

- ・商品化には至らなかったものの、紅映梅の特長を活かしたシロップの製法が取得でき、新たな加工品開発に向け今後も継続していきたい。



# 6. 福井高専におけるPBL事例

## <実施事例>

### 福井高専専攻科×明城ファーム株式会社

#### 『PBL型授業を通じた高専生による企業現場の問題発見およびその解決』

【指導教員】 環境都市工学科 辻子教授 ほか6名

【参加学生】 専攻科1年生 25名

【活動期間】 令和3年10月～令和4年2月 ※必修科目「創造デザイン演習」の後期に実施。

## <協働先の課題>

- ・スマート農業への展開（耕作放棄地を減らしたい）
- ・栽培施設内の加温装置の検討、燃料費の削減
- ・AIを用いた観光農園での受付

## <学生の取組内容>全6チームの内、3チームが

- ・現場見学（バス移動）と現場でのヒアリング（課題発見）
- ・特許検索／知財把握（J-PlatPat検索）
- ・中間発表（審査会）と企業の意向把握
- ・3Dプリンタ＋市販品の組み合わせで具体的なものづくり（1チーム上限3万円）
- ・最終発表（審査会）と企業のコメント

## <事業成果>

- ・「栽培環境を数値化して栽培品目を選定するシステム」
- ・「廃タイヤを用いたエネルギー確保」「ケーブル上のヒーティングシステム」
- ・「受付業務の自動化」の開発

## <協働先からの感想>

- ・継続的に実施（協働）したい。＊R4以降も継続実施。

